

## 活動記録書

開催日： 令和5年8月3日(木) 天候：晴	開催テーマ： 「国宝へようこそ」DVD鑑賞
開催場所： 金沢公会堂多目的室	記入者： 熊谷 滋子
参加人数： 会員 25名、準会員 6名、休会者 1名 合計 32名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：</p> <p>1. 法隆寺</p> <p>推古15年(607)、聖徳太子と推古天皇により創建されたと伝わり、8世紀初頭に現伽藍が完成したと考えられる。DVDでは数ある国宝の中で、その一部が紹介されている。入母屋造本瓦葺の中門、初重裳階付本瓦葺裳階板葺の五重塔、そして寺の本尊を奉る法隆寺の中で世界最古の木造建築である金堂は飛鳥時代にしか見られない中国古来の建築様式で初重裳階付入母屋造本瓦葺である。その金堂の本尊として法隆寺創建当初から安置されている事がはっきりしているのが釈迦三尊像である。光背には製作の年代、作者名等を伝える銘文が刻まれている。アルカイックスマイルを浮かべた表情には独特の神秘的な雰囲気漂っている。推古31年(623)に造られた。釈迦三尊像の中尊とほぼ同じ形のスタイルを示す薬師如来坐像は、銘文は推古15年(607)とあるが技法的に7世紀後半とみられる。釈迦三尊像の両側に立つ毘沙門天、吉祥天立像は木造及び切金文様で承暦2年(1078)に造立された。五重塔や金堂らが立ち並ぶ西院伽藍を囲っている本瓦葺の回廊は、東廻廊と西廻廊があり、神聖な場所を仕切る役割を果たす。大宝蔵殿にある今日「百済観音」の愛称で親しまれている観音菩薩立像は木心乾漆造り。素朴な顔立ちと両胸下腹部の表現が独特のあたたかさを感じさせる。他に木造彩色の九面観音、伝橘夫人念持仏(阿弥陀如来及び両脇侍像及び厨子)も紹介された。法隆寺は兵火天災にあわず太子信仰によって守られ姿を今に伝えている。</p> <p>2. 洛中洛外図屏風 (紙本金地著色洛中洛外図)</p> <p>六曲一双の上杉本洛中洛外図屏風は桃山時代の画家狩野永徳の作品で天正2年(1574)織田信長が上杉謙信に贈り上杉家の家宝として伝えられてきた。画中に描かれたのは2400人を超える人々、クローズアップにより戦国時代の祇園祭の情景、当時の町衆のリアルな喜怒哀楽が浮かび上がる。屏風図に描かれたものを「動く美術館」とも呼ばれる現代の山鉾に残っていないか調査すると今も伝わるものがあった。永徳は応仁の乱で荒れた京都の町の復興のシンボルとして祇園祭を描いたのではないかと思われる。</p> <p>DVD鑑賞は前回で「百寺巡礼」が終わり、今回から「国宝へようこそ」が始まった。</p>	
参加者の状況・意見など： 猛暑の中多くの参加者があった。バス探訪の受付が始まり25名の申込があり、今後も参加者を募りたい。	
<p>次回の予定：</p> <p>令和5年9月7日(木) 10時京急長沢駅集合 テーマ：津久井浜を歩く</p>	